

令和8年5月1日  
写真文化首都「写真の町」北海道東川町

## 東川町内のアイヌ語地名やその由来を記した地図を 2026年5月1日よりWEBサイトで公開！



アイヌ文化伝承者知里幸恵の生涯をモデルに、東川町が企画制作した映画「カムイのうた」が公開から2年。東川町民や北海道上川地域の方に、アイヌ文化へ改めて目を向けてもらうことを目的に、東川町内のアイヌ語地名やその由来を記した地図を5月1日より、カムイのうたの学校ホームページにて公開します。

地図には、北海道大学アイヌ・先住民研究センターの高橋靖以客員研究員（言語学）や専門家の協力を得て文献調査を行い、最終的に32地点に記されていた34語を訳しています。

### ●実施概要

- 名称：シンレ（東川町アイヌ語地名マップ）
- 公開日：2026年5月1日（金）よりカムイのうたの学校プロジェクトホームページで公開
- 特設WEBページ <https://moula.jp/LP/kamui/map/>
- 全体監修
  - ・北海道大学名誉教授 小野 有五
  - ・川村カ子トアイヌ記念館 館長 川村 晴道、副館長 川村 久恵
  - ・北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員研究員 高橋 靖以
- 参考文献
  - ・旭川市史編集委員会（1960）『旭川市史 第四巻』旭川市役所
  - ・山田秀三（1984）『北海道の地名』北海道新聞社

### ●本プレスリリースに関するお問い合わせについて

写真文化首都 北海道「写真の町」東川町 文化交流課  
Tel：0166-82-2111（代表）  
FAX：0166-82-5111  
Email：kouryu@town.higashikawa.lg.jp

## ●映画「カムイのうた」について

北海道東川町では、1903年に生まれ、19歳の若さで亡くなったアイヌ文化伝承者・知里幸恵（ちり・ゆきえ）さんをモデルに、日本の先住民族であるアイヌ民族とその文化の素晴らしさ・重要性を伝え、差別のない世界を目指すために映画「カムイのうた」を製作しました。

2023年11月23日より北海道内で先行上映が始まり、2024年1月26日からは全国の劇場で上映され、2025年7月現在までで全国70館以上の劇場で公開されました。



## 世界の映画祭で多数の作品賞を受賞

- カルカッタ国際カルト映画祭（インド）：2023年8月-9月国際長編映画部門作品賞 受賞
- モントリオール・インディペンデント映画祭（カナダ）：2023年秋優秀長編映画 選出
- グランド・シネ・カーニバルモルディブ（モルディブ）：2023年9月長編映画部門 特別賞
- ハーキュリーインディペンデント映画祭（スペイン）：2023年9月長編映画部門 佳作



## ●アイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」について

北海道東川町では、多様な文化と国内外の交流を推進し、多文化共生のまちづくりに取り組んでいます。その一環として、2023年には大雪山文化と、大雪山のふとこで生きるアイヌの文化を広めるとともに、差別のない世界（=多文化共生社会）を次世代に伝えることを目的に、東川町とさまざまな機関・団体と連携して“オール北海道”で作り上げた映画「カムイのうた」を製作。2024年にその映画に込められた想いを、若い世代をはじめより多くの方に気軽に触れていただけるよう、(株)北海道新聞社と連携してアイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」を発足し、多文化共生社会の実現と継承に取り組んでいきます。

### プロジェクトサイト

<https://moula.jp/LP/kamui/>

## ●映画「カムイのうた」・アイヌ共生プロジェクト「カムイのうたの学校」に込める願い

北海道には、言語、宗教、文化に独自性を持つ先住民族であるアイヌの人々が暮らしています。アイヌ語は文字を持たず、長い間、口語伝承によって受け継がれてきました。その中で、知里幸恵さんは、自身の命を懸けて「アイヌ語」を文字として記録し、後世に伝えるという大きな功績を残しました。

映画『カムイのうた』は、大雪山の雄大な自然を背景に、知里幸恵さんの半生をモデルにした物語です。この作品は、アイヌ民族が受け継いできた文化の重要性を伝えるとともに、差別のない世界を目指すためのメッセージを込めて製作されました。アイヌの人々が暮らしてきた豊かな自然環境と、厳しい社会環境を描くことで、文化や価値観の多様性がもたらす尊さを伝えています。

この映画とプロジェクトが、差別や迫害の歴史だけでなく、現代社会にも存在する「いじめ」「差別」「紛争」といった問題に目を向けるきっかけとなれば幸いです。そして、次世代を担う人々にとって、国内外の社会問題を解決し、共生共和共栄の社会を築くための一助となることを願っています。



## ●北海道東川町について

北海道のほぼ中央に位置し、北海道最高峰の旭岳（2,291m）をはじめ、美しい田園風景の広がる人口約8,500人の自然豊かな町です。「東川」の地名の語源は、町を流れる忠別川のアイヌ語地名 [Cuk pet チュクペツ]（秋-川）に由来しています。これを [Cup pet チュプペツ]（日-川）と聞き取り、日は東から上るし、川も東から流れ、アイヌ語の東 [Cupka チュプカ] とも似ているので、「東川」としたと推測されます。川の名前は「忠別川」となりましたが、町の名前は「東川」となり、東川はアイヌ語地名そのものではないですが、アイヌ語に由来する地名と言えます。稲作を中心とした農業と、木工業、観光業が主な産業です。大雪山からの伏流水の恵みを一身に受け、全国でも珍しく全戸が地下水で生活しています。町の東部は日本最大級の大雪山国立公園に含まれ、可憐な高山植物、鮮やかな紅葉、一面のパウダースノーなどが特徴として挙げられます。登山をはじめとしたアクティビティなど、四季折々の姿で世界中の旅行者を魅了しています。1985年には写真の町を宣言し、「写真映りの良い町」を目指し、写真文化を中心に国内外との交流を進めるなど、文化を通じたまちづくりに取り組んでいます。また、家具の産地でもあり、旭川家具の主要産地となっているほか、日本初の公立日本語学校を開設し、日本語留學生が暮らすなど国際交流が盛んな町でもあります。

